

歌壇

櫻井 登世子 選

特選

富士見坂名のみ残りて見なれたる遠き富士山ビルはかくしぬ

大塚 加藤 喜雄

点々と芽吹きの中に山桜日暮れのせつな白さ増しゆく

千駄木 伊藤 惠津子

蝸牛凌霄の蔓登りゆく角出しながら楽しむように

小日向 内野 仙也

入選

古稀にまた集うと誓い福島と同級会はいまだ開かず

水道 高木 マリ

赤錆びたボルト留めし煉瓦壁東京駅舎は美術館なり

千石 菊地 正矩

役割を了えし幟の矢車が青嵐うけて軽やかにまわる

小石川 荻原 和夫

セーラーのお古を纏い焼跡の道を通いし学生時代

千石 小出 風沙子

人里に下りて駆除さるる熊哀れ彼等の森を奪いしは人間

千駄木 上杉 紀世子

便箋をもとめて売り場見回せど縦書き用は少数派なり

千石 菊地 正矩

真夏日の玉音放送に耳すましぬ蝉は鳴き継ぐ暗示するがに

西片 松林 利枝

俳壇

佐怒賀 正美 選

特選

空梅雨や点字の上の指迅し

向丘 丸岡 正児

またたびの花と教はり流人墓

小石川 中野 千鶴子

梅雨最中猫が砂搔く朝の音

小日向 内野 仙也

入選

枇杷熟るる寺門の裏の猫溜り

白山 藤井 優子

苔庭に揺らめく光夏来たる

千駄木 山田 鈴女

吊り革の腕まだ白き薄暑かな

千石 菊地 正矩

ためらひの一語ころがし氷菓舐む

音羽 森田 幸子

老どちの童謡合唱梅雨もよし

小石川 村本 延子

梅雨上るドアに明るき子供傘

春日 二村 吉光

ペアルック妻の選びし夏帽子

千石 大石 坦